

3年生から6年生まで、こんなことを学びます！

3年生から6年生まで、理科と社会ではどんなことを学ぶのか、主な単元を見てみましょう。黄色の下線部はとくにつまずきやすい単元です。

理科

植物の育ち、つくり／チョウを育てよう／太陽とかけ
光の進み方／風・ゴムの働き／回路
電気を通すもの、通さないもの／磁石の力や性質
物の形と重さ、体積
「形・体積・重さ」の関係が混乱しやすい。3年
生の理科で、苦手を感じる子どもが多い単元。

観察の計画のたて方、記録の整理／体のつくり、
筋肉の働き／月や星の動き

乾電池のつなぎ方、光電池

直列や並列などのつなぎ方や、それによる明るさや電流
の強さのちがいが想像しにくい。

水の姿と温度／もののあたまり方

雲と天気／発芽と成長／メダカの観察／ふりこの
観察／花や実／流れる水の姿／電磁石／人の誕生

ものの溶け方

濃度を求めるなど、計算が必要になる問題も。
算数の要素が色濃く入る単元。

ものの燃え方と空気／人や動物の体／植物のつくり
水溶液／地層、火山と地震／月と太陽

てこのはたらき

支点・力点・作用点はどこ？ てこが釣り合う
条件は？ 暗記や計算も多く手こずりやすい。

電気の利用／生き物と環境

3年生

4年生

5年生

6年生

社会

3年生
わたしたちの住む町
学校のまわりから、町や区、市。絵地図を導入
に、地図の見方にもなじんでいく。
働く人々／暮らしと道具の移り変わり

4年生
健康な暮らし、住みよい暮らし
(ガスや電気、飲み水、ごみ、下水道など)
浄水の様子やごみの収集、電気やガスの供給……。自分
たちの生活と関連づけて考えられるかがカギ。
安全な暮らし(消防、警察など)／わたしたちの住む県

5年生
日本の国土と人々の暮らし
(寒暖や土地の高低による暮らしのちがいなど)

山脈や川、場所や名前の暗記項目がたくさん！

食料生産と暮らし (米作りや水産業、畜産など)
輸入や自給率などのことばの理解や、資料の読み取りも加わる。

工業生産 (機械、金属、石油化学、食料品など)
工業地域の名称や位置など、ここも暗記が満載。

貿易・運輸／情報(放送、新聞)／環境と暮らし

6年生
日本のあゆみ

短い間に、古代から近代までの歴史をたどる。地図や年
表など資料を読みとるスキルも重要な。

私たちの暮らしと政治(地方公共団体や日本国憲法の
基本的な考え方など)／世界の中の日本(日本と関わりが深い
国々の様子、国際的な協力や交流、日本の役割など)

「社会は、地理や歴史など現代の
世界を理解するために必要な単元
が多く、学年とともに重要性がア
ップしてきます」(狩野先生)

「先ほどもお話ししましたが、3
年生になると、とたんに勉強の内
容がどこか遠くの話のように感じ
られてしまう。そうでなくて、
「実は自分が見ている風景とつ
がっている」ということを、いか
に実感させてあげられるかがカギ
だと思います」(川幡先生)

「まずは『おもしろい』と感じ
させましょう」(川幡先生)

「次から、「好き」につなげる学
習のコツをうかがいます！」

どうやって
学ぶ？

ここが「好き」と「きらい」の分かれめ！

3年生からの 理科・社会

小学3年生になると、いよいよ理科と社会科の授業が始まります。興味を持って楽しく学ぶために家庭でできることを、理科と社会、それぞれ専門の先生方に伝授してもらいます！

取材・文:編集部 イラスト:あべさん

花まるグループ・スクールFCで人気のお2人に聞きました！



狩野 崇先生



川幡智佳先生

「苦手意識」が芽生える三つの原因

1 単元のイメージがしにくく

たとえば社会科なら、自分の「近所」から「町、市や区」へ。「グンと範囲が広がり、見たことがない、知らない内容が増えます。すると、イメージがしにくくなり、まるで別世界のこのように感じるのです」(狩野先生)



2 暗記項目が増える

たとえば、3年生理科の「明かり」の単元を例にすると、回路や豆電球、ソケットやフィラメントに導線……。「教科書に、耳慣れないことばや、暗記しなくてはいけない項目が増えていきます」(川幡先生)

3 テストが登場！

それぞれの教科のテストがスタート。生活科ではある程度点数がとれていた子も、「3年生からはきちんと理解していないと点数につながりにくくなります」(川幡先生)。いきなり低い点数をとってショックを受ける子も。



社会科、公立中高一貫校受験講座などを担当。自ら生徒と外に出かけるなど「体験」を大切にする。楽しいうんちくとともに語る「最高に面白い社会科の授業」が有名。

これまでの生活科から、理科と社会科の授業が独立します

小学3年生になると、新しい单元が登場します。それが理科と社会科。1、2年生の間は生活科で学んでいた内容が3年生で分かれ、独立した教科となるのです。生活科は、学ぶ内容の軸が「日常生活」にあります。見たことや聞いたことのある、身近なことが勉強の中心なのです

こう説明するのは、花まるグループ・スクールFCで理科の授業を担当する川幡智佳先生です。家

や学校のまわりを歩いたり、観察したりすることが中心だった生活科ですが、3年生になると様子が変わってきます。同じくスクールFCで社会科の講師を務める狩野崇先生は、「学ぶ範囲が一気に広がります。すると、授業の内容が自分とは関係のないことのよう思えて、急につまらなく感じてしまう子もいます」と話します。

狩野崇先生は、「学ぶ範囲が一気に広がります。すると、授業の内容が自分とは関係のないことのよう思えて、急につまらなく感じてしまう子もいます」と話します。

「知らない言葉や事柄を覚えることを苦手とする子も見られますね」(川幡先生)

「知らない言葉や事柄を覚えることを苦手とする子も見られますね」(川幡先生)

「知らない言葉や事柄を覚えることを苦手とする子も見られますね」(川幡先生)

3年生の社会科体験、 こんなことをやってみよう!

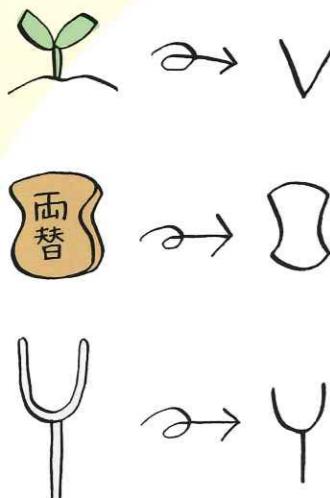
自分が見ている風景には、必ずストーリーが隠されています。「こういう経緯で、こうなった」という結びつきや理由がわかると、がぜんおもしろく感じられるもの。親子でいっしょに見たり、調べたりと好奇心を全開に!

私たちの住む町 ➡ ご近所散歩に出かけよう

学校の授業では、生活科より広い範囲を歩いたり、絵地図を制作したり。「そこで、一緒に家のまわりの地図を持って、近所を散歩してみましょう。地図の見方や使い方を確認するだけでも、学校の授業とリンクして役立ちます。『ここはどうしてこんなに畑が多いんだろうね』『どうしてこの通りはお店ばかりなのかな』など、考えるヒントを与えてもいいですね」



歩き慣れたいつの道も、あらためて地図で確認しながら歩くと新鮮!



絵地図 ➡ 地図記号の由来を調べてみる

3年生から、少しづつ地図記号が授業に出てきます。この暗記で地図が嫌になってしまう子どもも。「地図記号は、形だけで覚えるのはかなり難しいもの。成り立ちや意味を調べて記号のストーリーを知れば、『なるほどね!』と納得して覚えられます」。地図記号の由来は、ネットで検索できます。

古い道具、昔の暮らし ➡ 実物を見に資料館へGO!

百聞は一見にしかず。「資料館や博物館はできるだけ見学に行きたいところです。教科書で見る昔のアイロンや洗濯板など、古い道具も子どもたちは大好きです」。コロナで外出がままならない時期ではありますが、外出ができるようになったらぜひ出かけてみましょう。教科書を持っていくのもおすすめ。



見学や体験会でも、大人が積極的に質問してみよう。

働く人と私たちの暮らし ➡ 体験に参加してみよう

さまざまな仕事と、私たちの暮らしの関係を学ぶ単元。「工場や企業の見学や体験に、積極的に参加してみましょう」。今は見学・体験会の休止が多くても、スーパーマーケットなら比較的出かけやすい。商品はどんなふうに分類されている? 配置にはどんな工夫がある?など、いつもとは違う目で見学してみましょう。

好きなテーマでトライ! かるた作り

狩野先生も子どものときには実際にやっていたという「かるた作り」。社会科の暗記や理解に楽しく役立ちます。「戦国武将や都道府県など、子どもが興味のあるものを題材にします。まずは大人が手伝って、枚数も少なめに作ってみましょう。好きなカテゴリなら、子どもはノリノリで考えますよ」

子どもといっしょに出かけたり、見学や体験をしたり。
「教室でも、社会科が好きな子どもは、親御さんの働きかけが多く見られます」(狩野先生)
普段忙しい中、そのために時間をとるのは大変なことかもしれない。子どもと一緒に興味を持つことを楽しんだり。子どもに「プレッシャーを感じさせない親御さんの協力がいちばん強いなど感じます」
狩野先生は話します。



大きさや質感。写真だけではわからないことを確認しに親子でGO!

子どもをノせる親のアクション

いつしょに調べて、出かけてみる。大人が楽しんでいる様子、感心している様子を見せることで、子どももノッてきます。「親御さんが社会科に詳しくなくてもいいのです。いつしょに楽しみましょう」(狩野先生)

「質問をしてもOK」と思わせる

わからないことは、どんどん質問できるように仕向かせましょう。「それには大人が質問する姿を見せるのがいちばん効果的。私も、子どもたちと資料館などを見学に出かけた際はどんどん質問をします。それを見て子どもたちは『あ、聞いていいんだ』『教えてくれる人がいるんだ』と学び、次回から実践するようになります」(狩野先生)



疑問をその場で解決できる力を養ってあげよう。



行く前にさらっと予習。見学のポイントを話し合うのも楽しい!

体験前の「予備知識」を意識する

休みの日に、遠くのお城まで見学に連れて行ったのに、つまらなそうに関心を示さなかった……。こんな話を耳にします。「出かける前に教科書などを広げて『明日はこういうところに行くよ』など、予備知識を少しでもつけてあげましょう。教科書の写真と翌日の見学先など『結びつき』があると、見方や楽しみ方は変わってきます」



「一生懸命覚えてるけど、それは勉強に関係ないよね……」と思うなかれ。「覚えること」が好きになると、社会科にもスムーズになじめるのです。

具体的な体験を 教科書の「リンク先」と 結びつける

「社会科は、扱う素材はとてもおもしろく、大切なものです。が教科書を見ているだけでは、自分には関係のないこととつまらなく映りがちなのです」と話すのは、狩野先生(前出)です。

「そこで、具体的な『ストーリー』からリンク先を提示してあげましょう。旅行に行ったりドラマなどを見たりしたら、教科書を広げて『あのとき見たのは、この場所だよね』『あのドラマの時代は、ここだね』という具合です。リンク先があるとわかると、教科書の中だけのことしか思えなかつたことに、親しみが感じられてくるのです」(狩野先生)

そして、親が「楽しむ姿」も、子どもの興味を社会科に向かわせる、と狩野先生。

「本や地図帳を開いたり、旅ではいっしょに体験をしたり。お城見学も、ただ見るだけでなく撮って全国の城アラバムを作るなどミッションを決めて、子どもと実行してみるのもおすすめです。こんな楽しみ方ができれば、子どもは社会科が好きになりますよ!」

学びのコツ

社会

